

大阪学院大学

～ 学生と教員を支援する e - ラーニングツールの構築 ～

大阪学院大学では、ネットワーク上での教材提示、レポート提出、小テストの実施や学生同士のディスカッションなどの機能の中から、教員個々の工夫によって独自の授業環境を構築できるプラットフォームを構築して教員と学生に提供している。教員と学生への支援を充実するため専門の組織を設置して対応している。

1 . e - ラーニングの実施目的 :

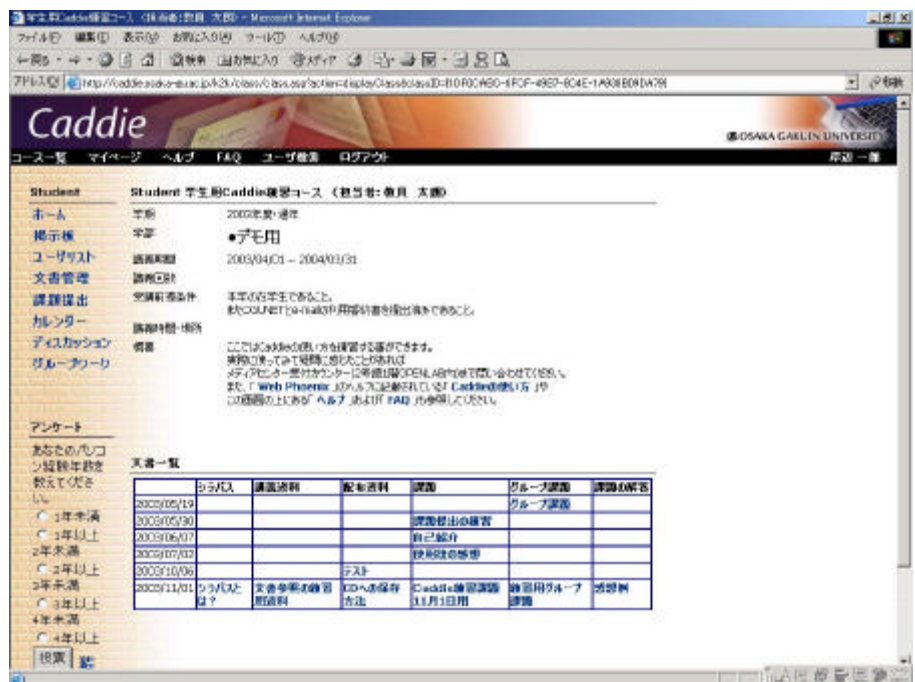
- ・ 教員の授業準備を支援するため
- ・ 授業での教材提示を充実するため
- ・ ネットワークを介した学生との質疑応答などのインタラクティブ性を確保するため
- ・ 小テストなどによる学習履歴の把握や学習進度に応じた課題提示など自学自習支援のため
- ・ 時間・場所を制限しない学習環境を学生に提供するため

2 . e - ラーニングの実施規模

実施の規模 全学的に実施
 e - ラーニングを活用する科目数 263科目
 対象となる学生数 3,856人

3 . 授業での位置付け

「教育支援システム『Caddie』」は学習活動を管理するためのツールとは一線を画しており、学習環境の自由度を高めるために「支援」することを主目的としている。つまり、システムとして成績評価と直結しているものではない。ただし、授業における「Caddie」の位置付けは各利用教員のコーディネートにより、授業前に教材をアップロードして学生の自習を義務付けたり、「Caddie」上での課題評価を成績評価の参考としているケースもある。

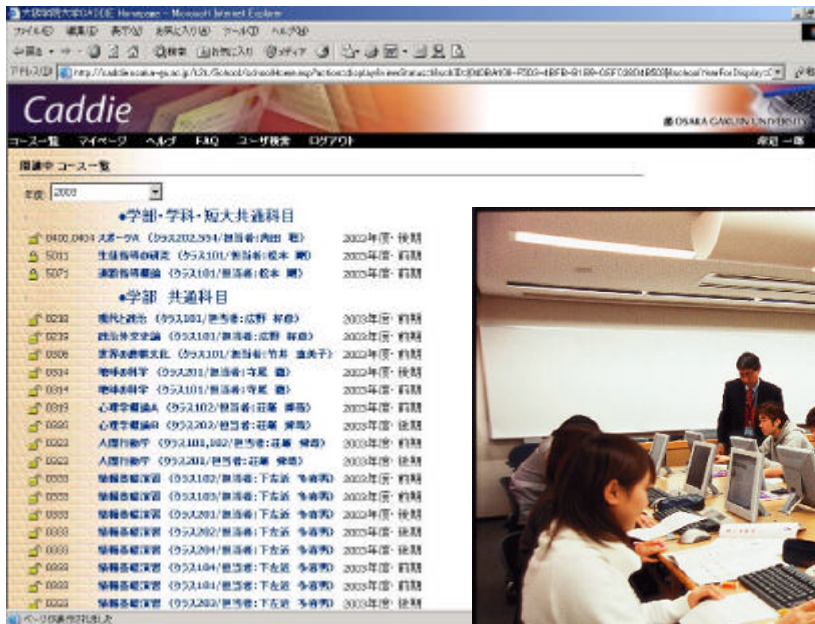


4. 代表的な授業科目での活用内容

- (1) 科目名 『パソコンで学ぶ経済学』
- (2) 受講学生数 150人
- (3) 具体的な活用状況

毎回、授業終了時に、課題を出し、学生がそれに対して、Caddieを使用してレポートを提出している。これらのレポートに対して、評価を行い、それを合計して、成績評価の一つとしている。最近の課題は、クイズ形式を利用して経済学を学ぶ課題や、Excelを使用して需要曲線と供給曲線のグラフ

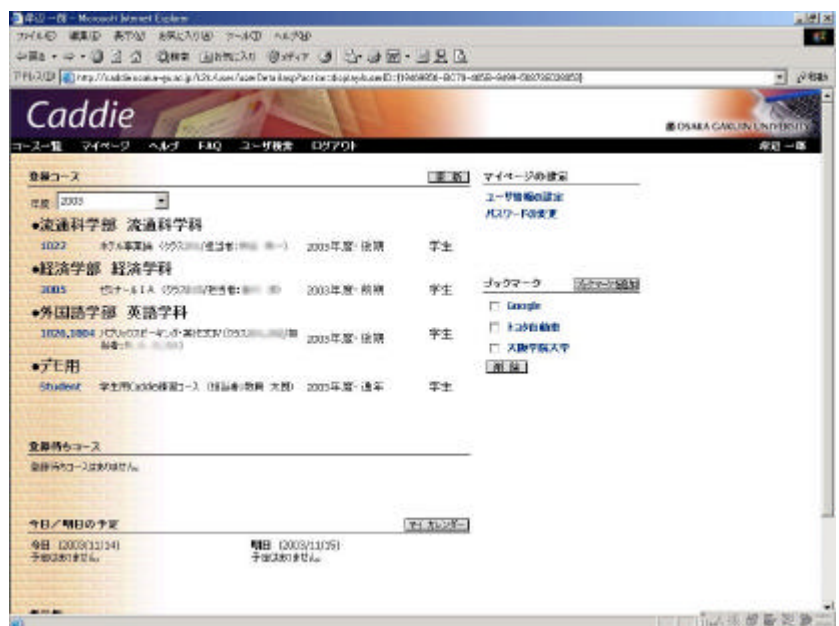
を作成する「需要曲線と供給曲線」などがあり、学習に対するモチベーションを高める工夫をしている。



5. e - ラーニングの活用により期待している効果

教育支援システム「Caddie」のコンセプトは「Class On Demand」であり、学生にとっては、授業外で予習・復習したいときにいつでも利用できる、どこからでも教材資料や情報をここから閲覧・ダウンロードすることができる、授業内で解決できなかった疑問・質問を解消するための教員との、また、学生同士のコミュニケーションツールとして活用することなどにより、学習効果の向上を図っている。

教員にとっても、同様にいつでもどこからでもアクセスできることから、授業の準備が容易となる、



大教室においては資料の配付、その他の授業でも授業欠席者へのフ

フォローのための資料提示などに有用である、などの利点があり、学ぶ側の高い自由度を提供することができるものとして、多くの教員がそれぞれの授業形態に合致した利用方法でその授業コンテンツを学生に最大限教授されることを期待している。



予想外の大きなデメリットは特に発生していないが、懸念事項としては、（特に教員が懸念していることであるが、）いつでも資料等が入手できるので学生の出席率が下がるのではないかという不安（実際にこのようなことになっているという声はない）、教員が提示する教材のファイルデータが大きい場合の学生側 PC 環境の問題、実利用から出る様々な要望への対応（カスタマイズ）の問題、などが挙げられる。また、これらの他に「著作権」の問題が挙げられるが、本学では、教員に対して著作権に関する情報提供を行っている。特に、Caddie 利用教員に対してはコース登録時に「著作権」に関する取扱いについてインフォメーションしており、各自のコース管理において適切な運用がなされるよう促している。

6．大学の支援内容

平成14年10月より、大学に DEC(Digital Education Center)と DSS(Digital Support Service)を設置し、授業へのマルチメディア有効利用について、教員をサポートしている。

DSS が教員からのあらゆるマルチメディアサポート申請の窓口となり、DEC がこれを運営している。サポート内容としては、教材のデジタル化支援や代行、授業内での利用説明、Q&A やトラブル対応等を行っている。時期によってサポート件数の多少はあるが、毎週 70 件～140 件程度のサポートを行っている。また、申請のあったサポートをするのみならず、教員のマルチメディア利用を喚起・促進するために教員を対象とした「DSS セミナー」を実施し、教育支援システム「Caddie」や CALL 教室、PowerPoint 等の利用説明を行ったり、実際に利用している教員の事例紹介を行うことで、マルチメディア有効利用の拡大・向上を図っている。平成15年度前期では、6種8講座を実施し、105名の教員の参加があった。

その他、遠隔授業等の新しいツールを授業に導入するためのサポートも行っている。

7．今後の方針、拡大・改善の計画

現在は、昨年10月より DEC・DSS にて進めている支援体制を確立し、前項に挙げた各事項の充実・利用拡大、時代に即した新企画の立案・実施を目指している。これには、教員と事務局が適切に協働することが不可欠であると考え、このことにより、授業コンテンツとテクノロジーの有機的融合を実現し、学生にメリットを生むサポートを提供することを目指す。

《問い合わせ先》

大阪学院大学 庶務課DEC担当 主任 中嶋 康二 氏
TEL: 06-6381-8434